

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店（売場主任）	・ヤングを中心に復活傾向にあった婦人服の流れが、アダルト以上の層にも波及している。店頭での客の動きや、実際の購買内容を見ても、5月以前の非常に厳しい状況を脱しつつある。この傾向が今後も続く。
		百貨店（営業担当）	・雇用拡大、可処分所得の増加等をメディアが取り上げたことで、消費マインドを刺激している。今後も良くなっていく。
		百貨店（営業担当）	・個人所得の増加と雇用の改善が進んでおり、福岡市天神地区の消費動向は若干でも伸びる。
		百貨店（販売促進担当）	・リストラの一巡等で企業が安定し始め、消費者にも若干のゆとりが感じられる。高額商品はあまり動かないが、小さな消費に対する意欲が感じられる。
		百貨店（営業企画担当）	・客の所得が増加傾向にあり、消費の冷え込みが下げ止まった感がある。
		スーパー（店長）	・安定的に数%ずつの伸びがずっと続いている。この流れで行くと、景気はやや上向きになる。
		スーパー（店長）	・ギフトは不振であったが、婦人服、紳士のクールビズ関連、半袖シャツ等の夏物衣料品の売行きが非常に良い。また、インポートの時計、電気製品等の単価のやや高い物がやや売れてきている。この傾向が今後も続く。
		コンビニ（エリア担当）	・昨年を上回る状況が続くそうである。客単価が伸びており、客の財布の状況を反映している。
		衣料品専門店（総務担当）	・最近、低価格商品への問い合わせより高額商品への問い合わせが多くなった。質を重視し、バーゲン品よりプロパー商品を選択している。
		家電量販店（店員）	・液晶テレビやDVDレコーダー等が、非常に買いやすい価格まで落ち、しかも良い機能の商品が揃ってきた。ただ、若年層における雇用不安により、引き続き景気の回復は遅くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の受注台数が増えてきている。この傾向が今後も続く。
		乗用車販売店（管理担当）	・新車の投入はないがモデルチェンジ等があり、現状よりもやや良くなる。懸念されるのは原油高で、買い控えが続く。需要はあるが、購入時期が延びている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括） 都市型ホテル（副支配人） ゴルフ場（従業員）	・原油価格は高止まり感があるため、今後は下がり、仕入価格の値下げが予想される。 ・9～11月くらいまでの予約状況は非常に良い。特に単価よりも利用の幅が広がっている。 ・暑さのせいでも客数は前年を下回ったが、9、10月の予約は前年並みに入っている。昨年並みかそれ以上になる。
		変わらない	
商店街（代表者）	・気候が良くなり、少しずつ食欲が増す時期になるが、商圈内でスーパー等の価格競争が激しく、週末には広告が何件も入ってくるので、商店街にはあまり客は帰ってこない。		
商店街（代表者）	・厚生年金等の引き上げや、配偶者特別控除の廃止等で財布のひもは絞られており、景気回復の気配はまだみえてこない。		
一般小売店〔青果〕（店長）	・青果業界においてプラスになるような材料が全くない。		
百貨店（営業担当）	・可処分所得の減少によりギフトの件数が絞り込まれる一方、夏物バーゲンは好調で、自家需要の商品は動きがある。必要な商品以外購入を控える傾向は続いている。		
百貨店（販売促進担当）	・郊外店舗の影響で中心部の人の流れが減っている。この傾向は今後も続く。		
百貨店（売場担当）	・売上は前年並みである。ただ、入店客数が前年比96%と3～6月の同97.4%に比べ若干落ちている。近隣の大規模商業施設は3～6月が同105.6%とかなり伸びており、そちらのほうに客が流れている。		
スーパー（店長）	・先行きへの不安からか、景気が良くなったという実感が客の買物態度には出ていない。		

	スーパー（総務担当）	・食品は前年並みで推移しているが、衣料品、住居用品がここにきて前年割れである。1、2か月前まで衣料品、住居用品がある程度好調だったのは夏物の早期割引をやっていたためであり、今後は厳しくなる。
	スーパー（総務担当）	・大企業を中心に企業業績は良くなっているが、まだまだ中小企業には反映されておらず、客の消費マインドは上昇していない。またガソリンの値上げ等でいろいろな生活費の部分がかなり厳しくなっている。
	衣料品専門店（店員）	・衝動買いがほとんどなくなってきている。適正価格で必要なものだけを買う傾向がみられる。
	衣料品専門店（店員）	・客単価が低く、洋服にあまり金をかけないという傾向は続くが、うちにしかない商品をアピールすることで、一部の優良顧客を維持していく。
	家電量販店（店員）	・今月は季節商品であるエアコン等が非常に良く売れたが、その分他の商品が落ち込んだ。つまり、エアコンが売れたからといってそれに追加して何かを買うという消費行動ではなく、支出する金額は客の中で決まっているということ、いくら安くしてもなかなか売れない。今後もこの傾向は続く。
	乗用車販売店（販売担当）	・来客数、販売量とも減少傾向にあり、その流れは3か月後も続く。
	高級レストラン（経営者）	・個人客の多少の回復が法人客の売上減をまかなっている。景気は現状維持である。
	一般レストラン（スタッフ）	・客単価は減少しているが、若い女性客は多い。売上は横ばいなので、景気はそう変わらない。
	旅行代理店（従業員）	・7月に入りようやく予約数が増え始めたが、価格の高い夏休みを避ける傾向にある。国内は北海道を除く他の方面で前年を越えている。海外は中国がまったく振るわず、韓国が下火である。
	タクシー運転手	・今年は昼間にゴルフをする人が少ないため昼の動きが悪く、売上があまり望めない。
	タクシー運転手	・客の話では、動きもいいし、夜の繁華街にも人が良く出るようになったということである。客自身も景気回復を肌で感じているようである。今の傾向が今後も続く。
	通信会社（管理担当）	・商談数が途切れる気配はないが、単価は厳しい。当分の傾向が続く。
	観光名所（職員）	・ゴルフ場は、コンペの数はそう落ち込んでいないが、組数が減っている。観光施設も営業の努力はしているが、確かな手ごたえはつかめていない。
	競輪場（職員）	・入場者が安定してきた。
	美容室（店長）	・競合する美容室も増え、ディスカウント店も多くなったので、現状維持である。
	設計事務所（代表取締役）	・公共工事の減少で受注に改善は見込めない。福祉関連の建築も供給過剰になりつつあり、今後、新たな受注が増加していくとは考えにくい。
	住宅販売会社（従業員）	・最近都市部ではマンションの着工が多く、戸建てのメーカーにとっては脅威である。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・空き店舗が増え、魅力ある商店がなくなっており、目的を持ってくる客が少なくなっている。
	スーパー（経営者）	・10月にまた近隣に大型商業施設ができるため、競争が激化する。
	スーパー（経理担当）	・競合他社がドミナント形成のため大量に出店中である。新興スーパーの出店意欲もおう盛で、過当競争になる。
	コンビニ（エリア担当）	・ボーナス直後にも関わらず財布のひもが堅いため、景気は悪い。3か月先は益々その傾向が強くなる。
	観光型ホテル（スタッフ）	・ライバルのホテルがリニューアルするので、その影響が出てくる。また婚礼に関しても、来春完成予定の東京資本の施設が現在予約受付中で、そちらに流れる可能性がある。
	タクシー運転手	・客は財布のひもが固いので、景気が良くなることはありえない。
	通信会社（業務担当）	・夏場はレジャー等への出費が多いため、しばらくは来店客数が減る。また、既存ユーザーの買替えを伸ばしたいが、低価格商品が少なく、高付加価値の商品もまだ高価格帯で推移するため、苦戦する。
悪くなる	百貨店（営業担当）	・10月に郊外に大型商業施設がオープンする予定で、街場の動員減が懸念される。
	百貨店（営業担当）	・大型商業施設の影響がますます出てくる。特に商店街はこれから空き店舗も増え、中心街全体の落ち込みはますます激しくなる。

		衣料品専門店（店長）	・昨日から始まった商店街一斉夏のセールも、客は閑散としている。売上が急速に回復する兆しはない。
		衣料品専門店（店長）	・夏物にいまいち動きがなく、秋から冬にかけての動きが読めず困っている。景気が良くなる要素もなく、仕入れも弱気である。
		美容室（経営者）	・例年では7、8月が1年の中でいちばん忙しいが、盆、夏休み中でもこんなに悪いのでは、行事が何も無い時期はさらに落ち込む。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・愛知万博の終了とともに、観光の一極集中からの回帰が期待され、また旅行会社の営業活動もその方向にある。
		家具製造業（従業員）	・原油価格が上がることにより石油製品の値上がりや、中国需要の影響による品不足の値上げも発生しており、中には原価が20%以上上がったものもある。受注金額は変わらないため、利益を圧迫している。ただし、相変わらずマンション、大型商業施設向けの案件は増えている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・営業先、取引先においても、業績向上や、案件受注への明るい話題の話を聞く。
		鉄鋼業（経営者）	・価格の下落に歯止めがかかっており、新規物件が動き出す気配がみえてきた。秋口に向かって需要は回復する。
		一般機械器具製造業（経営者）	・世の中の動きや周りの雰囲気は少し良くなっており、今後景気は良くなりそうである。また、客の反応も良くなってきつつあり、当社の仕事の混み具合等の問い合わせがよくある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体が生産調整に入り、まだ拡大の兆しが現れないところに苦慮している。ただし2、3か月先は、半導体関連の回復と自動車産業の動きにより、良くなる。
		建設業（従業員）	・官公庁での入札も増えてきていて、社内での見積もり件数も大分増えてきた。この傾向が今後も続く。
		建設業（総務担当）	・土木工事よりも建築工事において耐震補強工事の発注が今後もまだまだ続きそうである。今後とも必要不可欠な財政投資は続くため、景気はそこそこ良くなる。
		不動産業（従業員）	・賃貸オフィスの空室率が数か月低下し、改善の動きがみられる。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	・原油高及び素材の高騰の影響等、先行きの懸念材料もあるものの、数百億規模の大型投資計画等も出てきており、さらに雇用、所得環境も好転がみられるため、引き続き良くなる。
	変わらない	農林水産業（従業員）	・空梅雨による地下水位の下降、連日の好天・高温による乾燥など、次期播種予定の園芸作物にとって、悪条件となりうる状況が続いており、台風発生とあわせて見通しは心配である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・7月後半には相応の仕事の確保が見込まれていたが、それも若干の遅れが出ている。先行き不透明感が払拭できない。
電気機械器具製造業（経営者）		・精密機械関連並びに半導体関連の状況は非常に上向きであるが、2、3ヶ月先の見通しは、まだまだ難しい状況かと思われる。一進一退を繰り返すような状況である。	
精密機械器具製造業（経営者）		・当社以外にも周りの企業の情報で、世の中は今後もあまり良くなるという意見が聞こえてこない。	
輸送用機械器具製造業（営業担当）		・仕事量は十分あるが、単価が安くて非常に困っている。	
通信業（職員）		・今月はたまたま小～中規模工事の受注があったが、受注予算に対する進捗率は年度開始から低く、今年度受注の可能性のある折衝件数の増加も見込めない。	
金融業（営業担当）		・まだ中小企業においては設備投資、前向きな資金の需要といった投資のマインドが経営者に見当たらない。3か月後も変わらない。	
広告代理店（従業員）		・今月は年度を通していちばん多くチラシが新聞に折り込まれる月である。新聞販売店の取り扱い枚数は前年比103%と依然順調で、全業種で順調に増加している。ただし一昨年の折込枚数には届かないので、小幅ながら上昇していると見ている。この傾向が今後も続く。	
経営コンサルタント		・この2、3年契約単価の下落が目立つ。この傾向は変わらない。	
やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・例年陶磁器産業は夏場が大変弱いが、例年にも増して今年は受注獲得が悪い。消費者の荷動きも大変少なく、これから先が思いやられる。	

	悪くなる	輸送業（総務担当） 繊維工業（営業担当）	・全体の荷動きが4月以降悪くなっており、良くなる要素が見当たらない。しばらくは悪い状態が続く。 ・秋冬になりかけてもクーレビズの影響が続くとやはり景気が悪くなる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・長期の派遣案件が少しずつであるが増えてきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、お盆明けから秋口にかけて求人需要は活発になる。特に今年はアウトソーシングをはじめアルバイト・パートの求人が活発なため、人手不足の傾向にある。求人市場は一段と活況をおびる。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が高まる傾向にある。
		民間職業紹介機関（支店長）	・本年上半期の売上実績が前年を10%程度上回る見通しである。この傾向はよほど大きな経済的なマイナス要因がなければ、下期も続く。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・最近営業担当の派遣の依頼が多いが、ここ2、3か月営業担当を希望するスタッフの募集がうまくいっていない。スタッフがいないために成約に結びついていない状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・全体として、労働者の非正規化という雇用構造変化と求職者ニーズが折り合うまでにはいまだ至っていない。従って好転するとはいえない。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求職者数が増加傾向にある。また、求人の面においても非正社員化の促進が依然としてみられる。	
	悪くなる	-	-